

京都府立図書館



1106970195



なく男っぽくなつた様に思った。毎朝モンペ姿に防空頭巾、肩からは大きな布鞆、中にはささやかな御弁当、歌を歌って元気に行進して通つた。仕事の後の昼食は麦弁当でも美味しかった。やがて三ヶ月後、現場(桂工場と大丸百貨店の地下工場)に配属された。(中略)ずらつと並んだ旋盤、それを操作する女子学徒、機械の轟音、積み上げられた部品の山、忙しく連絡に歩く人、早朝、午后、夜勤、三部に分かれての勤務、増産々々のあの雰囲気、監督官の巡視、さぼりは絶対に許されなかった。

(小林成子〔境田〕「50年前を思い出して」あのころ 京都女子学園 千鶴会(平成七年六月二〇日)

私達は伏見にあつた第37部隊の連隊区司令部へ動員学徒として勤務することになった。動員のマークを胸に付け京阪電車で通勤する。途中電車の中で警報が出ることもあつた。仕事の内容は余り覚えていないが、赤紙(召集令状)に名前を書く仕事だつたと思う。兵積簿に依つて召集する人の名前がコヨリの様なものではさんであり其れを見て赤紙に書くのである。あの当時は、短現(短期現役兵)学校の先生ばかりだつた。

其の頃になると空襲警報が毎日のようになり、夜は3回位出る事が度々あつた。学校の裏の土手の防空壕へ待避するが何時も一番早く壕へ走るのは女学生(高女生)で女専の人たちは寝ている人が多かつた。

司令部は一番にB29に狙われる所で、最初の頃はまだよかつたが空襲も段々とひどくなりその日も休憩の時に突然飛来し機銃掃射をうけた。トタンの上に石をまいた様にパラパラと音がしてびっくり防空壕へ転がり込んだ。間一髪で助かつた。その後は司令部も度々空襲を受ける様になつて円山公園の奥の一心寺と言うお寺へ疎開する事になり動員組もお寺で終戦まで仕事を続けた。

(芦田章子〔秦〕「50年前の思い出」あのころ 京都女子学園 千鶴会(平成七年六月二〇日)



一方、上級生たちが学徒動員で働くなか、高女の下級生は舞踏と歌謡曲の慰問隊を編成して、各工場の上級生たちを慰問して回った。このメンバーのなかには、のちにミス京都に選ばれ、松竹の映画女優として活躍する奥村智恵子、歌謡曲コンクールで優勝して歌手となる今堀愛子や細見和子、さらには榎本流名取で、のちにNHK専属となる鍋田明子など、戦後の芸能界で成功する女学生たちもいた。

### 空襲を受けた第三小松寮と幼稚園

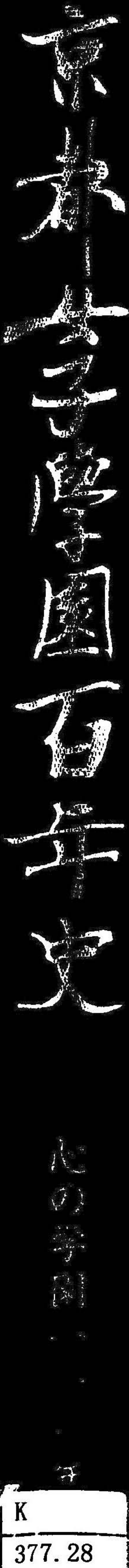
アメリカ軍による空襲は、主として工場や製鉄所などの軍事目標に対する精密爆撃であったが、昭和二〇年になると、都市のすべてを焼き尽くす無差別爆撃が開始された。同年三月の東京大空襲では、実に約三〇〇機ものB29が空を覆い、わずか二時間半の空襲で一〇万人以上の命が奪われるなど、わが国は終戦までに実に九八都市が壊滅的な空襲被害を受けることとなる。

そうしたなかで、戦後の長い間、「歴史的な文化遺産のある京都に空襲はなかった」と言われてきた。しかし、実は終戦直前までの八ヶ月間に、京都府下では少なくとも三五〇人近い人が空襲によって亡くなっている。その京都空襲の最初が、清水寺や大谷本廟の南側にあたる京都市東山区の馬町、現在の京都女子大学小松寮、東山寮、J校舎、学生会館から京都女子高等学校北門付近までの渋谷街道沿いを襲った爆撃であった。

昭和二〇年一月一六日、爆撃のあったその日、渋谷通りはいつもの燈火管制下で暗く、しんしんと夜が更けていた。午後一時過ぎ頃、震度三〜四のかなり強い地震があった。これは、二日前に愛知県を中心に襲った三河大地震の余震であったようだ。その地震からほどなくして、京都市内の高度六〇〇〇メートルの上空にB29一機が侵入、爆撃が加えられた。この時に落とされたのは当時「モロトフのパン籠」と言われていた小型の爆弾で、二五〇個以上が落とされた。

当時の町内会長であった大野竹治郎は、「京都空襲を記録する会」と京都府立総合資料館が共同で昭和四九年にまとめ





K

377.28

Ky6





爆撃を受け破損した幼稚園舎(昭和20年1月)

馬町爆撃で吹き飛ばされた第三小松寮  
(昭和20年1月)

また、当時第三小松寮の寮長であり、自身も被災者の一人であった西原美佐は、素足のまま飛び出して救出作業に奔走した空襲直後の様子を次のように語る。

寮生の一部は智積院にまで避難し、第二小松寮応接室にも所せましと避難していました。私はコタツによる火災発生を防ぐため、見廻りに駆けずりまわっていました。その時、第二小松寮にいた寮生が私を呼びに来て河崎さんが怪我をしていることがわかり(余り痛みはないものとみえ本人は怪我をしていることを知らないようでした)すぐ京女診療所の看護婦さんに第一日赤へ連れて行って貰いました。十分な手当をして貰えず帰って来ましたが、傷が頭部のことですから心配になり、看護婦さんにまた京大病院まで連れて行って貰い、そのまま入院してもらいました。傷口はガラスの破片で切ったらしく、三針ほど縫ったと思います。

〔東山タイムス〕第六〇号・昭和三六年三月一〇日付

結局、第三小松寮では、寮生五名が倒壊した建物の下敷きになったが、夜明け頃には五名全員が無事救出された。河崎寮生が頭部に負傷したほか、四人は軽傷であった。第三小松寮の建物は真つ二つに裂け、両側にわずかな残骸が残っているだけだったという。一二〇名もの寮生を収容していた寮が直撃弾を受け



容所になっていた修道国民学校で救護にあたったが、「ドロや壁土が鼻や口に詰まって窒息死した者や、圧死した者が多かった……」と、当時の凄惨さをのちに語っている。

馬町周辺の正確な被害状況は、警察や軍によって厳しい情報統制が行われていたこともあって定かではないが、松原署の記録では、死者三五人、火傷を含む重軽傷者五四人、全壊二二戸、半壊九四戸、全焼九戸、半焼七戸、全体の被災者七二九人とされている。また、前掲した『かくされていた空襲』では四一人の死亡が記録されており、『東山タイムス』の「京女史口伝」(昭和三六年三月一日付)では、死傷者一〇三人と記されている。いずれにしても、この馬町の空襲により、三五人以上の人が亡くなったのはたしかなようだ。

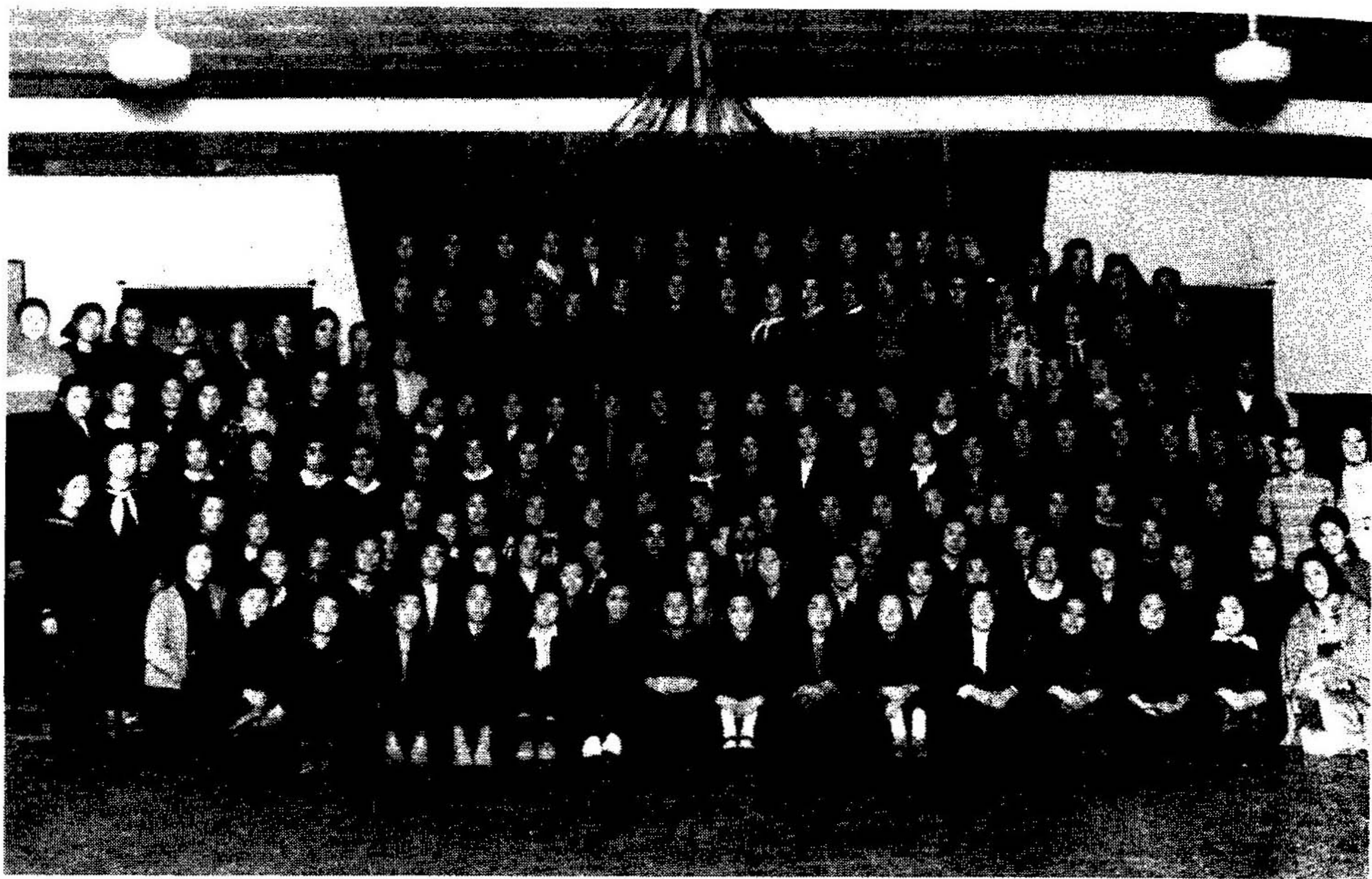
そして、被爆後も女専の生徒たちは後片付けを終えると、すぐにまた厳しい勤労働員に戻っていった状況について、さらに、西原は次のようにいう。

後片付けのために勤労働員(宇治火薬庫)を三日休んだだけで、また朝は七時に出勤し、夕方七時すぎ帰宅といった具合で、動員の監督(国文科三年)として出勤させられていました。正に昼夜兼行です。毎夜の警報に起こされ、疲れて寝込んだ女学生を起こし、防空壕へ待避させねばなりませんでした。被爆後もこのような状態が続きました。

〔東山タイムス〕第六〇号・昭和三六年三月一日付

また、京都幼稚園は被爆後、仮校舎として女専の第三校舎を借り、ここで園児の卒園式を迎えることとなった。そして、同年四月には女専、高女と校舎を共用することとなった。京都幼稚園は、戦時体制下で京都市内の幼稚園がすべて休園状態となるなか、唯一開園を続け、母親たちの職場挺身の一助となり、「銃後幼稚園」とも呼ばれていた。





「さくら会」の第1回総会記念写真(昭和20年11月11日)

\* 市民団体「戦争遺跡に平和を学ぶ京都の会」による最新の調査では、京都空襲で投下されたのは「二五〇ポンド(約一一二キログラム)高性能爆弾二〇発」であったこと、さらに当初の攻撃目標が名古屋の兵器工場であったことなどが、米軍資料から判明している(『京都新聞』平成二二年八月三日付)。

### 勇ましい姿で語り継がれた「さくら隊」

空襲の被害は、学生たちが動員されていた軍需工場でもあった。

京都高等女学校の生徒二七四名が、三菱電機の伊丹工場に動員されたのは昭和一九年の秋のことであった。生徒たちの寄宿寮には、尼崎市さくら町三丁目の日本生命社員寮の「さくら寮」があてられ、この動員隊は町名にちなんで「さくら会」と名乗っていた。さくら会のメンバーは、朝礼で「軍人勅諭」を暗唱し、校旗を先頭に隊伍を組んで工場に通うなど、軍人並みであった。軍需工場では、遙拝場に整列して、はるかに皇居の空を望んで天皇の安泰と戦勝を願い、航空機の精密機器や絶縁体の製造作業に一心不乱に専念していた。さくら会の寄宿舎が空襲を受けたのは、そんな矢先のことだった。



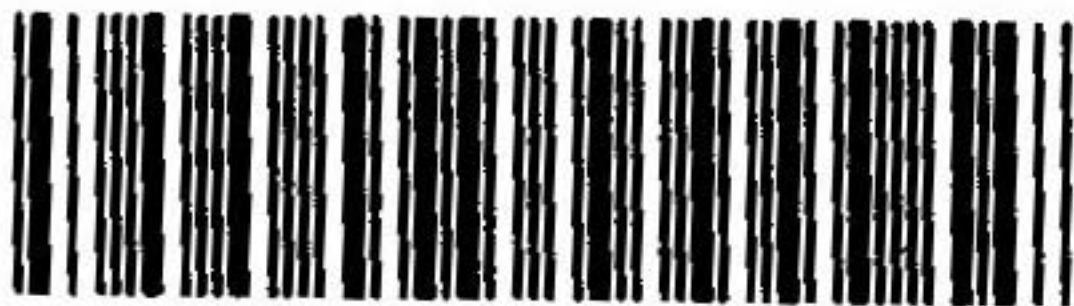
年度	学園の動向	教育界・社会の動向
昭和一七 一九四二	四 岡部宗城、高木校長の逝去に伴い、高女・裁女校長事務取扱に就任。同年五月女専校長事務取扱も同様に就任の件認可。 六 後藤澄心、岡部校長事務取扱の後を受け、女専・高女・裁女校長に就任する件認可。	六 ミッドウエー海戦が始まり、日本海軍は主力空母四隻を失う。 八 米軍がガダルカナル島とツラギ島に上陸し、ソロモン海戦が始まる。
昭和一八 一九四三	七 『東山タイムス』が名称に英語を使用しており、時局柄不適當であるとの指導を受け、『東山学園時報』に変更。 九 女専、前年一二月よりもさらに三ヶ月も早い繰り上げ卒業式を挙行。報国団に鼓笛隊を編成。 一〇 女専、英文科を廃止し、東亜科を設置の件認可。 三 東京方面の修学旅行が中止となり、伊勢神宮への戦勝祈願に変更。	二 ガダルカナル島から日本軍が撤退を開始。
昭和一九 一九四四	五 高女、専攻科を設置する件認可。 八 田丸道忍、藤音理事長の後を受け、女専維持財団理事長に就任。 一 女専維持財団評議員会、「財団法人京都東山女子学園」と改称し、女専・高女・裁女・本派本願寺保姆養成所の設置主体となることを決議。 二 第一回女子挺身隊の入隊式を講堂にて挙行。卒業生九四名が、舞鶴の海軍工廠などに住み込む産業戦士として参加。	六 政府が「学徒戦時動員体制確立要綱」を決定。勤労動員命令により、学徒は学業を休止して軍需生産に従事することを規定。 九 イタリア、バドリオ政権が連合軍に無条件降伏する。
昭和二〇 一九四五	一 女専維持財団評議員会、財団名称を「財団法人龍谷女子学園」と改称することを再決議。 一 龍谷女子学園の設立に際し、本願寺執行長・朝倉暁瑞が九万円の、本願寺住職・大谷光照が三万円の寄附をすることを承諾。 一 『東山学園時報』一六九号をもって一時中断（戦後、『東山タイムス』として復刊）。 二 女専維持財団評議員会、本派本願寺保姆養成所を「京都保姆養成所」と改称することを決議。	一〇 戦時勤労動員が一年の約三分の一にまで強化される。 一一 カイロ宣言を発表する。 一二 東条内閣改造。東条英機首相が参謀総長を兼任、軍政両面で独裁体制を確立する。



19022013

別冊付録(DVD)あり

京都府立図書館



1107976670